

2025 年 8 月 3 日（日）第二礼拝「墮落と救い」創世記 3 章 1～5 節

創世記 3 章は、墮落の原因とそれに対する救いについて教えています。人類に最も大きな絶望を与えた墮落、そして最も大きな希望を与えて救いについて学ぶことができます。

第一番目、墮落と死です。創世記 2 章には、神様が人間をエデンの園に置いたことが書かれています。エデンには神様との親密な交わりがありました。神様は、いのちの木の实や善悪の知識の木の实を食べるのも人間の自由意志に任せられました。これは神様の祝福です。しかし、自由意志によって選択する時、責任が伴います。神様は「善悪の知識の木の实を取って食べてはならない。それを食べるなら必ず死ぬ。」と言われました。しかし、サタンは人間に「神は本当に言われたのですか」と言って疑いを入れ、更に「あなたがたは決して死にません。それを食べるその時、あなたがたは神のようになります。」と神様に逆らうことを言いました。サタンが言う「神のようになる」とは、高慢と欲望の現れです。神様の望みは、私たちが神様のように謙遜になることです。アダムとエバが善悪の知識の木の实を取って食べた時、彼らの目が開かれ、互いに非難し始めました。そして、いちじくの葉で自分たちが恥ずかしいと思うところを隠しました。その事について神様がアダムに問われた時、アダムは「あなたの与えたエバがその実をくれたので食べたのです。」と言い、エバもまた「蛇が私を惑わしたのです。」と言って、神様に責任転嫁しました。その結果、蛇はちりを食べるようになり、アダムはちりに戻ると宣告されました。聖霊様が離れると、私たちはただのちりです。サタンはちりに戻った人間を黄泉(地獄)に連れて行き、永久に支配するのです。

第二番目、救いの福音です。「彼(女の子孫)はおまえ(蛇)の頭を踏み碎き、おまえは彼のかかとかみつく。」(創世記 3:15) 女の子孫とはイエス様のことです。イエス様は私たちの罪を背負って罪となられ、十字架につけられ、黄泉にまで下られました。そして、三日目によみがえり、サタン(死)の頭を踏み碎き、私たちを死から救い出してくださいました。神様はアダムとエバに皮の衣を作り、着せてくださいました。つまり神様は、私たちが恥とするところ(罪)を覆ってくださったのです。これはただ神様の恵みです。私たちは恵みによって、それを信じる信仰によって救われたのです。イエス様の十字架で流された血潮により、私たちの罪は赦され、義の衣を着せていただき、天国に入ることができるのです。

第三番目、謙遜と悔い改めです。放蕩息子が父から身代をもらい、遠い国へ旅立ちました。しかし、その財産も湯水のように使い果たし、食べ物もなくなり、豚の世話をしていた時、彼は我に返ります。「父のところには、パンのあり余っている雇い人が大ぜいいる…父のところに行って、こう言おう。『お父さん、私は天に対して罪を犯し、またあなたの前に罪を犯しました。…雇い人のひとりにしてください。』」(ルカ 15:17～19) 彼は悔い改め、父の子としてではなく、雇い人のひとりにしてもらおうと謙遜な姿で父の元へ帰りました。父は遠くから息子を見つけ、走り寄って抱きしめ、指輪をはめさせ、靴を履かせました。このように悔い改め、へりくだって神様の御前に出る時、神様が私たちを覆ってくださるのです。